

夏休み中でも、教職員は大忙し！？

長かった夏休みもあと数日で終わろうとしています。この夏休み期間中、子どもたちは学習したり、遊んだりと暑い中を工夫して過ごしていたことと思います。「教職員も夏休み！」と言いたいところですが、職員も普段できないことを行っていました。

学校の教員は「学び続ける教員」であることが求められます。本校でも、校内・校外を問わず、研究・研修を計画的に行っています。夏休みには、校内で人権教育研修・リスクアセスメント研修・犯罪未然防止研修などを行い、校外での研修会にも先生方は積極的に参加されていました。今後も子どもたちのために、私たち教職員も日々、学びを続けていく所存です。



スクールソーシャルワーカーを招いての研修



亀井中学校区三校合同での研修

19日(火)、近畿小学校長会協議会研究大会に参加するため私、神戸市に行っていました。他府県の校長先生方と交流してきましたのですが、元阪神タイガース監督の矢野燿大さんの講演もありました。プロ野球選手であった矢野さんは、満塁のとき打席に立つのが嫌だったそうです。「打てなかったら…」 「点が入らなかったら…」と考えるしまうのです。その後、メンタルトレーナーとの出会いから「心×行動＝結果」、心の持ちようで結果は大きく変わること気づかれました。監督になってからも、心や気持ちの面で後押しする姿勢で選手と関わってこられました。

現在、矢野さんは子どもたちの野球チームで教えられています。子どもたちには「できないかも」と考えるより、「できるかも」をいかに考えさせるかに力を入れておられます。また、「やる気の前にその気にさせる」ことが肝心ともおっしゃられていました。この日のお話は、野球界だけでなく、いろんな業界でも通ずるものがあると感じました。学校現場でも十分に生かし、実践していけると考えています。

脳とメンタルを“最幸”の状態にする

3つのポイント

- ①可能性を信じる！
- ②ピンチはチャンス！
- ③誰かのために！

ここに「感謝」が加われば、なお良し